

県立高校の特色化に関する方針

個人と社会のウェルビーイングの実現を目指して



学び応援キャラクター「信州なび助」
©長野県教育委員会



長野県教育委員会

はじめに

平成30年に公表した「高校改革 ～ 夢に挑戦する学び ～ 実施方針」では、長野県の県立高校の将来像を具体的に描いていくために「新たな学びの推進」と「再編・整備計画」のそれぞれについて方針を示しました。

それから6年が経過し、予測困難な時代へと大きく変化しています。生徒自身の学びたい学びを今後さらに叶えていくためには、広い県土にある様々な高校の一層の特色化・魅力化が必要であることから、「新たな学びの推進」に関して、令和5年度に有識者や様々な立場の方々から意見をお聞きする「特色ある県立高校づくり懇談会」を開催しました。

この懇談会での意見や、産業界、市町村および高校生の声などを踏まえ、すべての県立高校を対象とした具体的な特色化の方針をまとめました。

県立高校を一層魅力ある学びの場にしていけるよう、本方針を基に、各校において特色化を進めてまいります。

令和6年9月19日

長野県教育委員会教育長 武田育夫

特色ある県立高校づくり懇談会について

1 目的

生徒や地域の期待に応える特色ある県立高校とするため、有識者や様々な立場の方々からの幅広い意見を受け、令和6年度上半期に特色化に関する方針を策定する。

2 構成員

村松浩幸（信州大学 教授 ※座長）
赤荻瞳（渋谷女子インターナショナルスクール 校長）
荒井英治郎（信州大学 准教授）
伊佐治裕子（松本市教育委員会 教育長）
石坂晶子（長野県PTA連合会 役員）
岩本悠（一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム 代表理事）
小木曾一希（坂城高等学校 教諭）
鳥谷越浩子（松本蟻ヶ崎高等学校 校長）
野村達雄（株式会社ナイアンティック クリエイティブディレクター）
堀井章子（白馬インターナショナルスクール 理事）
向山孝一（KOA株式会社 取締役会長）
安原克彦（理文塾 塾長）
山下絵里（株式会社山下フルーツ農園 代表取締役）

※座長以下、五十音順

※所属及び役職は懇談会開催当時のもの

3 懇談内容

第1回（R5.6.5）

FEAT.space 大門

「これまでの高校とこれからの高校」

- ・高校の役割（そもそも高校とは）
- ・普通科と専門学科のそれぞれの役割
- ・子どもや社会・地域の視点からの役割
- ・これからの時代のあるべき姿
- ・求められる学び

第2回（R5.8.9）

松本工業高等学校

「県立高校の入口出口」

- ・生徒の希望に基づき学科の定員を決めることについて
- ・職業科で学んだ生徒が、その専門以外の進路を選んでいることについて

第3回（R5.11.15）

上田高等学校

「特色化、魅力化について」

- ・魅力ある選択肢を拡大させるために、どのような高校が必要か
- ・県境校や中山間地校の存続には、どのような特色化が必要か

第4回（R6.1.12）

長野県庁

第5回（R6.3.15）

長野県庁

「これまでに出了された主な意見と県教育委員会の考え方について」

- ・最終回にあたり、みなさまからご意見をいただきたい



本方針が定める全体の方向性

「個人と社会のウェルビーイングの実現」のための
県立高校の方針

※ウェルビーイングとは、身体的・精神的・
社会的に良い状態にあること

生徒が自分の興味関心や希望に沿って選択できる
これからの時代に合った特色あふれる高校づくりを進めます！

そのために

各校の特色を、4つの視点を基に重点化

- 1 様々な選択肢から、自分の進路に向かって
学びたいことをとことん学べます
- 2 社会に求められる技術・能力が身につきます
- 3 長野県のリソースを使った地域での学びができます
- 4 一人ひとりの個性や多様性が尊重されます



情報発信の強化・充実



特色化するための方策

1 様々な選択肢から、自分の進路に向かって学びたいことをとことん学べます

育てたい力

- ・広い視野を持ち国内外で活躍できる力
- ・より高度で深い学びに向かう力

<継続して力を入れていきたいこと>

- ・特定の大学進学支援を強化、生徒のモチベーション向上
- ・大学との高大連携を強化

<新たに実施したいこと>

- ・英語教育の更なる強化、海外大学進学への意識醸成
- ・中山間地校でのICTによる遠隔授業
- ・職業科における進学支援

3 長野県のリソースを使った地域での学びができます

育てたい力

- ・地域課題を見つけ、地域と協働しながら解決できる力
- ・学びの場を広げ、多様な価値観を受け入れられる力

<継続して力を入れていきたいこと>

- ・「信州学」を一層充実（PBL、自然学習など）
- ・高校における地域とのコーディネート機能を強化

<新たに実施したいこと>

- ・地域の拠点となる共学共創コンソーシアムを設置

2 社会に求められる技術・能力が身につきます

育てたい力

- ・新しい技術や産業に対応できる力
- ・地域に必要とされる資格や技術を持ち貢献できる力

<継続して力を入れていきたいこと>

- ・デュアルシステムを充実
- ・起業家マインドの醸成や時代に求められる学びを強化

<新たに実施したいこと>

- ・長野県ならではの高校における全国募集を実施
- ・介護福祉士養成コースを設置
- ・デジタル人材を育成（情報やデータサイエンス）
- ・職業教育の更なる充実
- ・メイクやマナーなどの学びの機会を提供

4 一人ひとりの個性や多様性が尊重されます

育てたい力

- ・自分の個性や可能性を認識し、好きや得意を突き詰められる力

<継続して力を入れていきたいこと>

- ・個別最適な学びを推進
- ・キャリア教育を一層充実
- ・生徒の幅広いニーズに合わせた支援を充実

<新たに実施したいこと>

- ・中学生の声を聴く新たな希望調査を実施
- ・時代にふさわしい入学者選抜制度を研究
- ・入学後の転入・転科を研究

1 様々な選択肢から、自分の進路に向かって学びたいことをとことん学べます

(1) 継続して力を入れていきたいこと

項目	懇談会でのご意見	今後の方向性
<p>特定の大学への進学支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難関大学を目指す子どもたちへチャンスを提供することも大事 ・ 進学に特化した特進クラスはどうか ・ 特進クラスは、保護者からは両極端の意見がある 	<p style="text-align: center;">特定の大学進学への支援を強化</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒が自身の進路に合わせた科目を自由に選択できる単位制の導入検討や、習熟度別に授業を選択できるコース制を拡充 ② 医学科・難関大学進学に向けたコースを設置 ③ 塾講師などによる教員向け講座の実施を検討 <p style="text-align: center;">生徒のモチベーション向上</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒の進学意欲を高めるための、医学科・難関大学との定期的な授業連携
<p>大学との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高大接続など、探究を深める質の違った形を模索してみてもどうか ・ 教育だけでなく産業界も巻き込んで〇〇×STEAMという枠組みも面白い 	<p style="text-align: center;">大学との高大連携を強化</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学びの複線化・多様化 ② 先取り履修の充実・拡大 ③ 高校と大学の教員同士が交流し、ネットワークを構築 ④ 大学や地元企業と連携した文理の枠を超えたSTEAM教育の実践校をつくり、探究的な課題研究を実施 ⑤ SSH（※）指定校は大学との連携を深め、先進的な理数系教育を一層充実させ、その学びを他校へもさらに拡大 <p>※SSH（スーパーサイエンスハイスクール）とは、将来の国際的な科学技術人材の育成を図るため、理科・数学等に重点を置いたカリキュラムの開発や大学等との連携による先進的な理数系教育を実施する国の事業</p>

1 様々な選択肢から、自分の進路に向かって学びたいことをとことん学べます

(2) 新たに実施したいこと

項目	懇談会でのご意見	今後の方向性
英語教育の強化・海外大学進学への意識醸成	<ul style="list-style-type: none"> 世界に目を向け、海外のトップ校を目指す高校があってもよい 海外からも学生を集められる高校はどうか 公立のバカロレアは学費面で有利。教育課程はタフ。既存校での英語充実も。公設民営も手 	<p>英語教育の更なる強化・充実や、海外大学進学への意識醸成</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 海外留学の更なる推進（つばさプロジェクトの拡充） ② ALT（外国語指導助手）の増員や、地域外国人の活用を検討 ③ 海外留学生の受入れ拡充・オンライン交流を拡充 ④ 県内大学への海外留学生との交流を実施 ⑤ 高校入試の英語科目のあり方を研究 ⑥ 国際教養科、WWL（※）実践校・協力校の英語の学びを充実し、海外姉妹校との連携強化 ⑦ 小中高一貫した英語の学びを研究 ⑧ 国際バカロレア導入を研究 ⑨ 海外への教員の研修派遣を検討 ⑩ 海外大学進学の情報提供を充実 <p>※WWL（ワールドワイドラーニング）とは、イノベティブなグローバル人材育成のため、高校生へより高度な学びを提供する仕組みを構築する国の事業</p>
中山間地校でのICTによる遠隔授業	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地のニーズは多様なので1つの学校の中でその多様性に対応することが必要 一校自前主義を超えて小規模ネットワークスクール構想をモデルで作ってみたら 	<p>中山間地校でも生徒のニーズに合った授業を保障</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ICTを活用し、中山間地校でも開講されていない多様な授業を展開（難関進学向けや探究授業など）する仕組み・枠組みづくりを検討 ② 中山間地校同士の交流を活発化し、開放的な学校へ転換 ③ 遠隔授業のスキル向上に向けた教員研修実施などの環境整備を検討
職業科における進学支援	<ul style="list-style-type: none"> 職業科でも大学進学を目指せるよう、普通科の学びを取入れることが必要 専門科にいても、進学希望者に対するケアを充実させることは、学習権保障という点においても大事 	<p>職業科で学ぶ生徒への大学進学支援を充実</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ICTを活用し、開講されていない進学に必要な授業を展開（難関進学向けや探究授業など） <p>※中山間地校でのICTによる遠隔授業と同様</p>

2 社会に求められる技術・能力が身につきます

(1) 継続して力を入れていきたいこと

項目	懇談会でのご意見	今後の方向性
デュアルシステムの充実	<ul style="list-style-type: none"> 職業高校では、実際にいろいろなことを経験して、いろいろな力をつけることが大事 輝く大人たちと出会うと子どもたちに化学反応が起こる。そのような場を作ることが必要 	<p style="text-align: center;"><u>これまでのデュアルシステム（※）を一層充実</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実施校や実施生徒数の増加に向け、これまでの各校の事例紹介などを積極的に実施 ② 期間の延長や、受入れ企業の拡充など、中身を一層充実 <p><small>※デュアル（2つの）システムとは、学校と企業（地域）が協力して生徒を育成する職業教育。インターンシップよりも長期にわたり就業体験を行う中で学習を深め、企業が必要とする実践的な技能・技術を身に付け、職業観や社会観を磨くことができる。</small></p>
起業家マインドや時代が求める学び	<ul style="list-style-type: none"> 高校として一番大事な未来を作り出せるような力を持った生徒を育てられるか 生徒がこれから生きていく社会のニーズを踏まえてそこを繋ぐことが重要 	<p style="text-align: center;"><u>起業家マインド醸成や時代求められる学び（英語・デジタル）を強化</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域を支える起業家マインドを醸成 ② 総合技術高校を含む専門科においては、専門性を活かす土台となる、実践的な英語力やデジタルなど今の時代に求められる学びを強化

2 社会に求められる技術・能力が身につきます

(2) - 1 新たに実施したいこと

項目	懇談会でのご意見	今後の方向性
全国募集	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地の高校は同質性が高いので全国募集など開かれた学校にすべき 住まいの問題がボトルネック。寮の新設は今もうできない。知事部局や市町村と連携が必要 	<p><u>長野県ならではの特色を持った高校にて全国募集を行い、多様な価値観を持った生徒を集める</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 飯山高校・白馬高校に加え、職業科などにおいて新たに全国募集の実施を検討 住まいについては地元市町村とも連携し、支援を実施
介護福祉士養成コース	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士への産業界のニーズは高い 生徒のニーズがあるか確認が必要 普通科か職業科かなどの選択を、中学段階ではなく、高校入学後にできないか 	<p><u>介護福祉士養成コースの設置を検討</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 国家資格介護福祉士の養成コースを設置 生徒が2年次から、自身の興味関心に基づきコースを選択できる体制を整備 他の介護福祉養成校との教員互換を実施
デジタル人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> デジタル科を設けること 長野県全体でデジタルスキルを実践的に学ぶハードルの低い学びや、SNSの学びも必要 	<p><u>情報やデータサイエンスの学びを充実</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 情報科の設置を検討するなどし、産業界が求めるデジタル人材を輩出。また、情報科からの大学進学も保障 教科「情報」の中でSNSリテラシー教育を全県で実践 データサイエンスの学びの導入も研究 <p>※ R 6 年度：県内ではDXハイスクール（高性能機器やデジタル環境を整備し、外部機関や有識者と協働する授業を展開）に14校が指定</p>

2 社会に求められる技術・能力が身につきます

(2) - 2 新たに実施したいこと

項目	懇談会でのご意見	今後の方向性
職業教育の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> • もっと専門的なことをとことん学べる仕組みを構築していくことが必要 • 高専は産業界から人気。県の産業界と一緒にやることが必要。大学に進学できるし、求人も多く、魅力がある。ただ、お金・人の面で大変なハードル • デジタルの学びの充実も大切 	<p style="text-align: center;"><u>専門的な学び（主に工業）の更なる充実に向けた取組を実施</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 県立高等専門学校設置を研究 ② 総合技術高校に専攻科設置を検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門性を極めたい生徒に対し、2年間の専攻科を設置 ・ 学習指導要領に縛られない、自由なカリキュラム編成 ・ アプレンティスシップ（働きながら学べる）の導入 ・ 情報に関する専攻科も設置 ③ 工業科と県立工科短大との一貫した学びを推進 ④ 職業科と、農業大学校や林業大学校との連携した学びを検討
メイクやマナーの学びの提供	<ul style="list-style-type: none"> • 社会に出る準備を提供する必要がある（メイクの授業など） 	<p style="text-align: center;"><u>メイクやマナーなどの学びの機会を提供</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実社会のTPOに応じたメイクや服装などの身だしなみや、マナーなどの学びの機会を提供

3 長野県のリソースを使った地域での学びができます

(1) 継続して力を入れていきたいこと

項目	懇談会でのご意見	今後の方向性
長野県らしいカリキュラム編成	<ul style="list-style-type: none"> • どんな進路にも対応できる学科を超えたコアカリキュラムが必要 • 幼保から高校まで一貫した長野県らしいカリキュラム（自然学習など）があると面白い • 学校設定科目はプロジェクト授業を中心に据えてみては 	<p>地域課題を題材にした探究的な活動「信州学」を一層充実</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 長野県の風土を理解し、地域に参加する「信州学」 ② 長野県ならではの地域素材を題材にした探究的な学習（PBL（課題解決型授業）、自然学習などの実施）
高校における地域とのコーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> • 教員は探究のコーディネーターが苦手 • 地域資源（自然・文化など）の活用には連携コーディネーターの配置が必要 	<p>学校と社会をつなぐ連携コーディネーターの配置を検討</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各校1人、または1地域1人を配置 ※配置方法は、地域や学校の事情などに鑑み決定 ② 以下のような取組を担う <ul style="list-style-type: none"> • 探究的な学習活動の推進 • 企業・団体と学校とのコーディネーター • 生徒募集や、高校の情報発信 • 生徒への進路支援

(2) 新たに実施したいこと

高校の地域拠点化	<ul style="list-style-type: none"> • 輝く大人たちと出会うことなどを通じて、地域を学び地域を担う人材の育成が必要 • 地域の中の学校をどうするかという観点で、地域連携を考えるべき • 人とのかかわり方を高校時代に身に付けることが大切。自分の価値観を広げ仲間の考えを許容できるようになることが重要 	<p>地域の拠点となる、学校の枠を超えた共学共創コンソーシアムを全高校に設置</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校の枠を超え、地元企業や大学、自治体、医療機関、福祉施設、他の教育機関、高校同士など、様々な連携により地域の拠点を創設 ② 地域連携協働室の設置を検討 ③ 高校の地域への開放を促進し、地元の方や小中学生が気軽に行き来できる場へ転換
----------	--	--

4 一人ひとりの個性や多様性が尊重されます

(1) 継続して力を入れていきたいこと

項目	懇談会でのご意見	今後の方向性
個別最適な学びの推進	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が学びたい学びを突き詰められるようにするには、大人が懐を深く持てるかがカギ 高校は就職する子も進学する子もいる。高校はそこをどう考えるかということが重要 	<p><u>多様な科目選択を可能とするための単位制導入を検討</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 生徒個々の進路希望や、興味関心に合わせたカリキュラムを作成 地元企業と連携した就業体験など、多様な課外活動が実施可能となるような体制を整備
キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップのような、地域のニーズと高校生の体験学習を融合し、それを単位認定してみても 校外に出て他者と関わる機会を増やすべき 	<p><u>キャリア教育を一層充実</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 個々に応じた小中高一貫したキャリア教育を実践 縦のつながりを大切にするための小学校から高校までのキャリアパスポートを活用 地元企業との更なる連携によるインターンシップの充実
生徒の幅広いニーズに合わせた支援	<ul style="list-style-type: none"> 何かに特化した子を受け入れてくれる学校は非常に重要 集団での学びが苦手な生徒への丁寧な対応を大切にしてほしい 発達支援や不登校支援の仕組みづくりは引き続き力を入れてほしい 高校には特別支援学級がない。相談できる支援体制が高校にほしい 外国籍の生徒をどう育ててあげるかは課題 	<p><u>生徒の幅広いニーズ（部活特化、進学特化、卓越した能力、発達障がい、不登校、外国籍など）に合わせた支援を充実</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 多部制・単位制・通信制高校を各地区に配置し、生徒が生活・学習スタイルや個々のニーズにあわせてマネジメント 特別支援教育コーディネーターの配置による相談体制の充実 中学生を対象とした「学びの多様化学校」について、高校内への設置を検討 外国籍の生徒への、生活支援員による生活全般的な支援の強化・充実や、特別な入試の用意

4 一人ひとりの個性や多様性が尊重されます

(2) 新たに実施したいこと

項目	懇談会でのご意見	今後の方向性
中学生への新たな希望調査	<ul style="list-style-type: none"> 既存の学校の枠にとらわれた形で中学生が答えてしまう進路希望調査を見直す必要がある 現在10月に実施している進路希望調査では、純粋な希望を反映しているとは言い切れないのではないか（時期が遅いのでは） 	<p style="text-align: center;">新たな調査を実施し、 中学生の声をより高校のあり方へ反映</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 毎年度当初に中学3年生を対象に新たな調査を実施 ② 希望の長期的なトレンドを反映した募集定員を決定
時代にふさわしい入学者選抜制度のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 新しい入試制度への変更に伴うインパクトも効果検証をしてほしい 連携型の中高一貫は可能性が十分あるかと思う 	<p style="text-align: center;">時代にふさわしい入学者選抜制度を研究</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 令和6年度開始の新たな入学者選抜制度での結果などを踏まえて、時代にふさわしい入学者選抜制度について引き続き研究を進める ② 理念が合致した市町村の複数中学校との授業連携や、多様な入学者選抜を核とした中高一貫校の設置を検討 ③ 生徒に対する多様な評価方法を研究
入学後の転入・転科	<ul style="list-style-type: none"> 特色化を進める一方、入学後にその特色が自分に合わないと感じる場合もあるので、他学科や他校などへの行き来を柔軟にする仕組みが必要 	<p style="text-align: center;">他の高校への転入、また他学科への転科を研究</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 単位制の導入など、単位を引き継いだまま転入・転科を可とする制度の研究を行う ② 入学者選抜制度との整合性・公平性を担保できる形を模索

長野県の高校をもっと生徒や地域のみなさんに知ってもらうために、次の取組を検討します

○地域への開放。高校を町の拠点にする

- ・小中学生や地域のみなさんが気軽に立ち寄れる町の憩いの場として開放（地域連携協働室の設置）
- ・工業科などの職業科において、町の課題解決や子どもたちとの交流を積極的に行い、各科の魅力を積極的に発信

○高校生が自ら行う説明会を実施

- ・高校生が企画・運営する、県内の高校の取組を広く紹介する新しい形の合同説明会の開催を支援し、中学生が自分の興味や適性を見つめ、将来への展望をもちながら自らの意思で進路について考える機会を創出

○連携コーディネーターへの生徒募集業務の位置づけや、情報発信業務を外部委託するなど、積極的な情報発信に向けた様々な取組を実施

- ・連携コーディネーターが生徒募集や説明会を実施
- ・生徒募集やホームページの更新などを外部の民間業者へ委託 など

<参考> 情報発信に関する懇談会でのご意見

- ・高校の活動の見える化がもっと必要
- ・高校生の合同説明会は非常に良い。SNSを使って高校生を広報などの学校づくりに参加させ、高校生の活躍する姿を見せることが中学生にとって大切
- ・県立高校が何をやっているか分からないという課題に対しては、発信方法、頻度、発信内容などの観点から精査し、さらに発信の主体を学校の自助努力にするか、もう少し県教育委員会がかじ取りをしながらその仕組みを整えるのか、考えたほうが良い

【方針に関するお問い合わせ】

長野県教育委員会事務局 高校教育課

〒380-8570

長野県長野市大字南長野字幅下692-2

電話 026-232-0111 (代表) 内線4399
026-235-7452 (直通)

FAX 026-235-7488

E-mail koko-kaikaku@pref.nagano.lg.jp

